

子どもを守りたい！そんな願いをカタチにしませんか？

子どもには、学校でも地域でも安全でいてほしい、安心して成長してほしい……。誰もが思うその願いをカタチにするために、ぜひCAPプログラムを活用してください。

CAP ってなに？

Child Assault Prevention (子どもへの暴力防止) の頭文字をとってCAP「キャップ」と呼んでいます。子どもの心とからだを傷つけることから子どもを守るために、おとなと子どもがそれぞれに学ぶ予防教育。子どもへの暴力に対するおとなの対応力と子どもの問題解決力を高めます。

子どもの心とからだを傷つけること、それが暴力。見過ごしたり、慌てたりすることのないように、予め知識とスキルを持って備えるのが予防です。予防には①未然防止、②発生防止、③悪化防止、④再発防止の4つの側面があり、CAPはそのいずれに対しても有効なプログラムとして評価をうけてきました。いじめ・誘拐・連れ去り・虐待・性暴力など子どもがあうかも知れないあらゆる暴力から子どもを守るのがCAPプログラムです。



予防

- ①未然防止 起きる前に、起こらないように
- ②発生防止 起こりそうになった時に
- ③悪化防止 深刻化する前に
- ④再発防止 再び起きないために

おとなも学ぶ必要があるの・・・？

CAP子どもワークショップ実施の前に2つのおとなワークショップを実施します。参加する子どもの周りのおとながすでにCAPのメッセージを知っていることになり、「けんり＝生きていくのに絶対に必要なもの」や「安心・自信・自由」といった言葉や概念が子どもとおとなの共通理解となります。

これによって、子どもが話しやすい環境の整備につながり、セイフティ・ネットづくりに大きく貢献するものです。また、子どもを支援するために学び合う場を設けることで、コミュニティ全体の子どもの守る力が高まります。

このようにCAPは、家庭・学校・地域の三者が一体となって子どもの安全を支えていくという考え方に基づいています。これは1978年にプログラムを開発して以来、

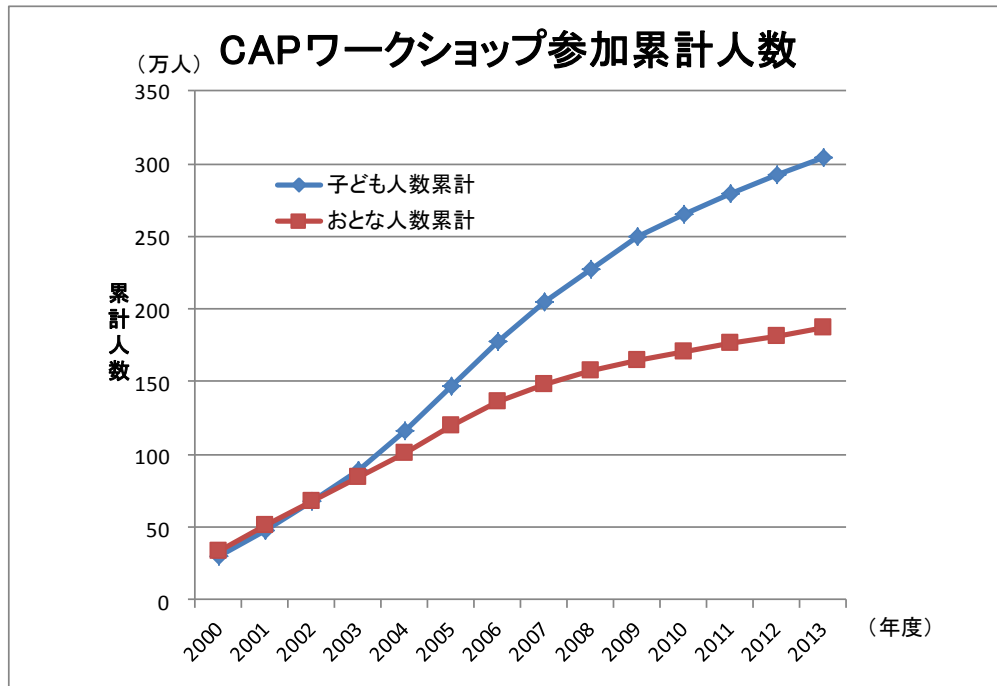
一貫してとっている方法論です。CAPは誰にとってもわかりやすく、だからこそ誰もが活用でき、日常で継続できるものだからこそ、予防教育として効果的なのです。

※おとなワークショップについては別紙「CAPプログラムを知りたい方々へ2」をご覧ください。



日本ではこれまでに491万人のおとなと子どもがCAPプログラムに参加！ (2013年度まで)

1978年にアメリカで誕生したこのプログラムは、日本での実践活動は1995年から本格化しました。現在、日本での地域で活動しているCAPグループは、約140あります。行政からの委託事業となっているところも多く、10年以上継続して実施している地域や学校、児童養護施設もあります。



CAPプログラムは「子どもを守りたい」おとなのためのプログラム

子どもがあうかも知れない子どもの心とからだを傷つけること(暴力)のうち、「犯罪」や「事件」はそのほんの一部。暴力は少しずつ深刻化し、生きていくのに絶対に必要なものである人権を侵害していきます。そして、事件として報道されるような出来事を前にしておとなは何ができたのかと無力感を抱くことに・・・。

しかしCAPプログラムで、なぜ子どもは話さないのかといった知識やどういった聞き方をすればいいのかといったスキルを持つと、子どもの身近なおとなには「子どもを守る」ためにできることがたくさんあることがわかります。

そして、自分だけじゃなく、「子どもを守りたい」と考えているおとながたくさんいることがわかり、勇気づけられます。地域全体で「子どもを守る」体制はおとなにとっても安心です。CAPで得た言葉や概念・考え方をを使って、子どもたちと一緒に「もしも心とからだを傷つけられそうになったら、何ができるか」を自信を持って話し合えるようになっていきます。地域全体に安心を広げるのがCAPです。

CAPは、子どもとおとなと一緒に「子どもを守る」ということを実現するプログラムなのです。



特定非営利活動法人CAPセンター・JAPAN